

イノベーションと経済・社会

ーイノベーションで私たちの生活がどう変わるのかー

徳島大学総合科学部 准教授
松嶋一成（経営学）

日本が低成長期に入って久しいですが、経済が成長するには、生産に用いる資源が増大するか、生産性が向上するか、またはその両方が必要になります。生産に用いる資源とは、一般的には「土地」、「資本」、「労働」などです。しかし、通常は土地や天然資源には限りがあり、資本は固定的で急に増えるようなものではありません。そして、超高齢社会を迎えて、これから労働人口が徐々に低減していく日本の場合、将来的に労働に期待することもできそうにありません。したがって、日本がこれから経済成長を遂げるには、生産性を上げたり、新たな価値をもたらす画期的な製品やサービスを創ったり、つまりイノベーションをおこしていくことが必要になります。

そこで、皆さんは「イノベーション」と聞くと、どのようなもの(こと)を思い浮かべますか。最近のものに限れば、おそらく日本発や日本企業によるものは少ないかもしれません。私の世代だと、ソニーのウォークマンやテレビゲームといった、世の中を変えるほどのインパクトをもち、大人も子供もワクワクしたような日本企業の新しい製品やサービスは、最近では随分と減った気がします。新聞やニュースで日本のイノベーション指数が低迷しているという話を見聞きしたことのある人も少なくないと思います。さらに、日本の企業の研究開発投資額の対GDP比率は世界でトップ水準ですが、そこからきちんと利益を得られておらず、実は投資効率が良くない、生産性も高くないというデータもあります。したがって、この20年間で、日本のGDPはほとんど伸びておらず、(意外に思うかもしれませんが)GDPの伸び率は主要国の中で最低水準です。

海外では、相変わらず日本車はよく見かけますが、日本製の電化製品は見かけなくなりました。実際に、皆さんがよく知る有名なエレクトロニクスメーカーの多くは、国際競争で苦戦しています。しかし、そうは言っても日本には高い技術力があるはず、と思われる人もいるでしょう。確かに、アップルのiPhoneの部品も半分近くが日本製ですし、ボーイング787の部品の4割近くは日本製です。こうした部品で、世界最高水準の技術力と高いシェアをもつ日本の企業も少なくありません。ただし、アップルやマイクロソフトやグーグル(アルファベット)やアマゾンといった規模の企業となると...そして、経済や社会に大きなインパクトをもつイノベーションとなると...

そもそも優れた技術であってもきちんとそれを市場で価値化することが難しいという事業面での問題があったり、イノベーションには、技術力だけではなく、様々な要因が複雑に関係し合いながら実現し、普及し、発展していくという側面があります。そして、それは社会や私たちの生活とも密接に関係しています。

当日の公開セミナーでは、まずイノベーションとはどのようなものなのか、その特徴を説明します。その上で、イノベーションは私たちの経済や社会にどのようなインパクトをもたらしているのか、その関係性を説明します。

さらに、既述の通り、イノベーションや、ひいては新企業や新産業の創出がますます必要になる中で、1つの視点として、地域レベルでどうイノベーションをおこしていくのか、ということも考えていきたいと思います。

総合科学部公開セミナー

第11回:2月23日(金)18:30~20:00

対象:一般・大学生・高校生 参加費無料

会場:総合科学部2号館1階地域連携小ホール

事前申込が必要。駐車場の利用可。

詳細:総合科学部HP

<http://www.tokushima-u.ac.jp/ias/>

申込み・問い合わせ先:

徳島大学総合科学部事務課総務係

TEL:088-656-9779

E-mail: sksoumks@tokushima-u.ac.jp